

しない仕組みをつくり出した。土を大切にし、農産物本来の良さを活かした多種多様な作物を生産する農業は、その仕組みに順応出来ず、換金性を重視するがばかりに単作生産に傾倒して行くようになった。そこに日本人の産地志向・ブランド志向が拍車をかけ、身近にあったはずの農業がどんどん離れて行くようになった。

その反面、国内における価格破壊はどんどん進み、それは農産物として例外ではなかった。

輸入農産物は価格を武器に、よりいっそう日本の農業に対し破壊的攻勢をかけてくることになるだろう。国内の生活者しか顧客を持たない日本の生産者には、それを回避することは、難しい。しかし、日

本の生産者にとって、生活者は極めて近い隣人であり、自らそのものでもある。

高品質な農産物をつくる高度な技術という知識資源と身近な関係性を武器に生活者に支持を得ることは不可能ではない。その努力と実現が日本の食と農に新たな可能性を開くことになるであろう。ひいては、生産者と生活者が一体となるときであり、次代の食と農の価値を創造することになるにほかならないと想うのである。

私たちぶった農産は、『自然・美味・安全・地域・楽しさ』をキーワードに、土作りを大切にしたいふつうの農業やものづくりを目指しています。



コーヒーと友情がつなぐ世界

タンザニア ルカニ村
フェアトレードプロジェクト

報告:金沢大学経済学部助手 吉村 未紀子

「フェアトレード」による「ルカニ村」の建て直し

「タンザニア」“名前は聞くけれど、アフリカのどこだっけ?”一般的な日本人にとって、タンザニアの認識とはこのようなものかもしれない。それくらい、身近なつながりが感じられない「遠い異国」だ。しかし、そのタンザニアのキリマンジャロ山にある「ルカニ村」に、この9年間毎年訪問を続けている人物がいる。金沢大学経済学部助教授の辻村英之氏である。現在、金沢大学で世界経済論を担当する傍ら、「ルカニ村フェアトレードプロジェクト」に取り組んでいる。

ルカニ村は、キリマンジャロ山の西斜面、標高1,580メートルにある、人口1,744名、世帯数290戸の農村で、主産物はキリマンジャロ・コーヒー。関西のNGOと現地の旅行社の企画により、96年から毎年夏に日本人を受け入れ、日本との交流を続けている村でもある。が、近年のコーヒー産業の不



調により、村民の生活水準は低下の一途をたどり、村の社会開発もほとんど進展していない。困窮していく村民を支えるために立ち上げられたのが「ルカニ村フェアトレードプロジェクト」である。

フェアトレードには種々の定義があるが、簡潔にまとめれば、第三世界の生産者から、手工芸品や食料品などをできる限り直接的に公正な価格で取引することによって、世界経済の中で弱い立場に追いやられている人達の自立を支援しようというもの。具体的には、最低価格の保証、前払い制（生産者が借金を負うことを防ぐ。あるいは手元に資金がなくても事業をはじめられる。）、長期安定契約といった対応がとられる。貿易で生じた利益によって、有機栽培を支援したり、女性や子供の人権尊重や教育促進のプログラムが組み込まれる例もある。



コミュニティ図書館の前で

「ルカニ村フェアトレードプロジェクト」では、フェアトレード会社「オルター・トレード・ジャパン社」が、最低価格を保証して輸入したコーヒー豆を販売し、その利益の一部を、ルカニ村の建て直しのために利用している。小売価格の7%をフェアトレード基金として積み立て、ルカニ村における自立プロジェクトの経費として利用するという内容で、現在は村のコミュニティ図書館建設を支援している。現在、大阪の自家焙煎珈琲店、岡山の焙煎珈琲通販店、京都の画廊内喫茶店とアフリカ料理店の4つの協力店を通じて、コーヒーの販売をしている。ちなみにそのコーヒー豆は、キリマンジャロ原住民協同組合連合会が集荷した最高品質のもので、香味の評価も高い。2001年5月に本格始動した後、約1年間で1,200ドルの基金が集まり、既に2回、村への引渡しが行われた。

ルカニ村でのコーヒー産業の不調の原因

以下、辻村氏にルカニ村でのコーヒー産業不調の原因をまとめてもらった。

「コーヒー貿易におけるアンフェアな価格形成の仕組みが、生産者価格を最低レベルにまで抑え込み、小農民が豊かになれない。消費者価格と比較してみると、喫茶店で1杯450円のキリマンジャロ・コーヒーを飲んだとしても、生産者には約130分の1の3.5円しか渡らない計算になる。

アンフェアな価格形成の1要因は、ニューヨーク・コーヒー取引所で決まる先物価格を基準として「上から」生産者価格が設定され、生産者が「下から」価格を引き上げる力が全く作用しない仕組みにあるが、さらに悪いことに、昨年从那その先物価格が、史上最安値にまで落ち込んでいる。よってそれを基

準とする生産者価格も史上最安値である。近年は5-10年に1度、コーヒー大国ブラジルで霜が降りた時だけ、生産者は十分な利益を上げられるに過ぎない。

また、世界をつらぬく自由・民営化の悪影響をも、ルカニ村のコーヒー産業は被っている。「小さな政府」の尊重により、農業への補助金が廃止され、その価格が高騰した。貧しい村民は農業を使用できなくなり、病虫害発生、生産量減少の原因となっている。また村での買付に複数の多国籍企業が参入したが、彼らは談合により買付競争せず（同価格で買付）、しかもそれに対抗すべき協同組合は崩壊寸前で、やはり低い生産者価格の1要因となっている。管理放棄された木も増え、10-20年後にはコーヒー産業は壊滅するという意見もある。」

日本では、いつでもどこでも手軽に手に入るコーヒー。便利でモノに溢れた日本に生活していると、モノはあって当然。目の前にあるモノがどんな人が関わって、どういう経緯を経て自分の手元にあるか、改めて考えることもない。私たち日本人は、いつのまにか精神的視野が相当に狭まっているようである。あるいは、目の前の豊かさに、何重にも目隠しをされているとでもいおうか。

「友人」としての支えあい

フェアトレードプロジェクトをはじめ、ルカニ村滞在経験者からの支援活動は多々行われている。それらは、基底に「友情」が存在する。村を訪問する日本人は皆、非常にあたたかく迎え入れられる。そのあたたかさに感動して、今度は日本人が村にあたたかい気持ちをお返りする。例えば辻村氏は、親と慕い、我が子と呼ばれる人間関係を村人と築いた。2001年にはルカニ村の名誉村民となり、希望すれば村のどこに家を建ててもいいそうである。このような深いつながりをもつ村人たち、そして、村人と同じ境遇に置かれている第3世界の人たちの境遇をなんとか改善したい、そういった強い思いが、支援活動の原動力となっている。この外からの応援団の存在が、どれだけ村民を勇気付けていることだろう。が、ルカニ村民はただ外からの支援を待っているのではない。事実、資金不足のために閉鎖に追い込ま

れた村の診療所は、村民自身による寄付で、翌年見事に再生した。村のコミュニティ図書館も、建築作業は村民自身で行っている。それゆえ日本からの支援も、一方的に“施す”募金活動にはなっていない。現地での自主的な生活改善の努力を支援しているのである。

実は、筆者もルカニ村に滞在させてもらった経験がある。初めて訪れた土地なのに、ちゃんと自分の居場所があると感じさせてくれる、あたたかさとおおらかさがあった。確かに、水道も電気も未整備であるし、経済的には非常に貧しいのだが、村人の健やかな笑顔を見ていると、先進国のいう「発展」が本当に発展といえるのか、真剣に考え直さねばと感じた。ともあれ、先進国に「発展」をもたらし、南北問題を引き起こしている世界の構造は、個人で立ち向かうにはあまりに巨大だが、村人の顔から笑みが消えないうちに、自分の手の届く範囲から何か行動したいと思う。それも、直接ルカニ村の人々に出会い、自分と「遠い異国」とのつながりを自覚できたから、そして、目隠しをはずし、現実を知るチャンスを与えてもらったからこそである。遠いどこかの国で苦しんでいる人に施す、という意識ではなく、



大きな世界経済の流れの中で、富を得る側と富を奪われる側が、隣人として心を通わせ、少しでも支えあっていけたらと思う。一杯のコーヒーがつなぐ縁に心から感謝するとともに、その縁を広げる辻村氏の活動がもつ意義を、今改めて実感している。

「ルカニ村フェアトレードプロジェクト」に関する問合せは以下まで。

- ・プロジェクトHP「ようこそルカニ村ファンクラブへ」
<http://homepage2.nifty.com/tsunji/>
- ・自家焙煎珈琲店 ポン・ネージュ
<http://www.jin.ne.jp/dj/bonneige/>
- ・遠赤焙煎珈琲専門インターネット通販店
COFFEECHERRY
<http://www.coffeecherry.co.jp/>
- ・堺町画廊
<http://www.h2.dion.ne.jp/~garow/>
- ・VIVA LA MUSICA!
Tel/Fax:(075)723-3297 E-mail:watz@f4.dion.ne.jp
- ・金沢大学経済学部地域経済情報センター
吉村未紀子 myoshi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

参考

「ようこそルカニ村ファンクラブへ」
<http://homepage2.nifty.com/tsunji/>
フェアトレードくらぶHP
<http://www.h4.dion.ne.jp/~ftc/>

執筆協力：金沢大学経済学部助教授 辻村英之

編集後記

「地域経済情報センター」が立ち上がりました。地域と大学の橋渡し役として、活動を充実させて参ります。学生にも地域で活躍してもらわねば。CURESもより内容の濃いものにしていきたいと思っておりますので、皆様のご意見ご感想などぜひお寄せ下さい。(Y)

地域経済ニューズレター第60号

2002年9月30日発行

発行/金沢大学経済学部地域経済情報センター
金沢市角間町(☎920-1192)
☎(076)264-5438

編集/金沢大学経済学部 地域経済ニューズレター編集委員会
印刷所/金沢市中村町28-14 株谷印刷
☎242-7267